

むらはやし

第40号

発行日 令和6年1月1日

発行所：千葉県茂原市茂原1201
日蓮宗：東身延 本山 藻原寺
TEL：0475-22-3153
発行責任者：増田 寶泉 総務執事

日蓮大聖人大銅像建立 浄財勧募中



日本一の日蓮大聖人の大銅像を

建立致します。

当山の檀信徒並びに

各寺院の御住職、檀信徒の皆様方、
銅像建立に賛同していただいける
方々のご協力を心よりお待ちしてい
ます。

お早めにお申し込み下さいよう
お願ひ申し上げます。

貫首様のお言葉



新しい年の門出に当たつて

令和六年の新春を迎えました。

お檀家の皆さんはどういうお気持ちで新年をお迎えに成られましたか。

ウクライナ戦争は終わつてはおりません。パレスチナ紛争も続いております。

国内では自民党の派閥が政治資金パーティーの収入の一部を裏金化していた問題で政治不信の高まりがみられ、経済に於いても物価の値上がりに対して所得の増加が伴わず、なんとなく晴れやかでない、余り希望が持てそうもない新年になりました。

でも生きて行く上で、希望をなくしたら、生きる意味が見いだせません。

どんなときでも人と生きる。ひとを助け、人に助けられて生きる。その気持ちだけは失わないで過ごしていきましょう。

「雨過天晴」と云う言葉があります。

初めてこの言葉を知ったのは、平成十八年十月七日のことです。

日本と中国の佛教者の友好関係を保つ団体があり、日中友好宗教者懇話会と云います。その団体で私が理事長の時は事務

局長をし、私が会長の時には理事長をし、

今私が名誉会長ですが、彼は会長をして

くれている、天台宗の山田俊和上人が、東北大本山平泉中尊寺の貫首になつて、

一ノ関のホテル・ベリーノで入寺式の祝宴が開かれた日です。そのときに、中国大使館の公使参事官である趙寶智氏が教えてくれた言葉です。

その日は前の晩から台風が来て大雨でした。中尊寺の本堂は雨漏りがしていました。

「今日は酷かつたですね」と私が言ったときに、彼が「先生、中国では雨過天晴」という言葉があります」と言いました。そうです。必ず晴れるのです。希望を持つて逞しく勇気を持って生きて行きましょう。さて、「もばら」第三十九号を出したのが令和二年九月一日です。

それから三年三ヶ月が経ちました。振り返ってその年の九月、十月の手帳を見ると、日程で真っ黒なほどになつた忙しい日々を過ごしていました。

令和二年十月二十一日は東京の本久寺（前に住職してた寺）に居ましたが、朝食後に意識を失い、救急車で東京曳舟病院の運ばれました。ICUで目覚めたとき、担当医からは「頭脳に何の障害がない。不思議ですね」と言われました。多分、痙攣重積症（てんかん）でしょうと云うことでした。実際には原因がわからなかつたのです。私の躰が悲鳴を上げていたのでしょう。

十月三十日に退院して、十一月九日に身

延に戻りましたが、戻る途中、腰に激痛が起っこり、翌日身延山病院に入院しました。身延山病院は身延山久遠寺が責任を持つ公益財団法人の病院で、私が理事長です。ブロック注射等の治療を受けて小康状態を得ましたが、脊柱管狭窄症であろうとの診断を受けました。

その後、今度は喉に激痛がおこり、十一月二十四日に甲府市立病院に転院して、早速喉の奥を切開し、膿を取る手術を受けました。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌による、頭長筋膿腫という診断でありました。頭長筋膿腫とは首の筋肉に膿が溜まる世にも珍しい病気だそうです。抗生素剤を投与して治療するため大変な時間を要し、体重も二十キロ以上減少して、五十キロほどになりました。

令和三年一月四日に退院し、身延山病院に戻り、抗生素の治療を続け、七月八日に退院しました。約八ヶ月の在院です。その後頭長筋は腰まで繋がっているため

に、腸腰筋に膿が溜まつたのか、腰と足の疼痛が激しくなり、慶應大学病院を紹介され、受診しましたところ、化膿性脊椎炎と診断されました。大変な手術になりますと言われましたが、手術を受けることを決断いたしました。十月十八日に慶應大学病院に入院して、二十五日に手術を受けました。

お腹と背中を開いて背骨の壊死した部分を削り取り、そこに腸骨から骨を取つて移植し、チタンボルトで固定するという大手術で、十一時間ほどかかりました。その後絶対安静で、ギブス、コルセットと段階を経てリハビリをしました。

令和三年十二月二十八日に慶應大学病院を退院し、翌日に身延山病院に戻つて、一月後の令和四年一月二十九日に退院しました。三ヶ月余の在院です。

それから今日まで普通の生活をしていますが声が出ません。

身延山では令和五年六月十七日の開創七百五十年を記念して、六月十二日から十八日に亘り記念法要と講座説教等を行いました。その全てに当たり主催者として挨拶をし、また二つの法要で導師をしました。

り、八月八日に甲府ペット病院で検査をした結果、咽頭癌であるとの診断をされました。

令和四年九月十一日甲府市立病院に入院し、三十五回の放射線投射治療を受けて、十一月九日に退院しました。ところが令和五年一月十七日に再度ペット検査の結果、癌巣が残つてることが判明し、北里大学病院を紹介されて、二月八日に診察に行き、手術を受ける決断をしました。

二月二十日に入院し、二月二十七日に咽頭癌摘出手術をしました。しかし放射線治療後のため、細胞が弱つており、手術跡が塞がらず三ヶ月の入院生活を送り、六月五日に退院しました。

そして通常の業務に戻り、身延、茂原、東京を行き来してました。

七月二十二日にコロナに感染しました。隔離期間中に喉に通常と違う感じがあ

更に九月一日夕刻に脳梗塞を起こしました。左手と左足が全然動かないのですが、医者は反対しましたが九月七日から十五日までイタリアに行つてきました。ミラノ郊外に蓮光寺という日蓮宗のお寺があります。そこに藻原寺の書院の入り口にある日蓮聖人の銅像と同じものを寄付したので、開眼法要の導師をしてきました。

十一月二十二日から二十九日までイングランドに行つてきました。ナグプールに在る妙海山龍宮寺は私が日本に於ける責任者です。今年は創立二十四周年になり、記念法要を奉行してきました。

そしてラジギールの靈鷲山やブダガヤの大塔と金剛宝座、サルナートの鹿野苑と仏跡を参拝してきました。身延山の学生十三人を連れていきました。

私は今、月の半分は身延山にいて、早朝四時半に起きて朝勤の導師をします。

茂原山には行事の時には戻りますが、月に二回に別けて、一週間位います。

行 事 記 録

御頭講会

令和五年一月月九日(月)

あとは地方に出向してます。話が出来るのはになるには時間がかかりますが、まずは杖なしで歩けるように心がけたいです。しかし私も米寿を過ぎましたから、余り無理をしないように考えています。これから日蓮大聖人の大銅像が茂原山にその勇姿を現わすように力を尽くして参りますので、ご協力下さい。

私は学生時代フランス語を専攻しました。覚えている言葉は少ないので、いつう言葉があります。

アフレ・フ・ブルイ・ル・ボー・タン
(apres la pluie le beau temps)

日本語ですと「雨が上がった後には、良い時が訪れる」です。
雨ばかりの人生ではありません。必ず晴れの日が来ます。辛抱も肝要です。

佛様に頂いた命を大切にして、心を尽くして生きて参りましょう。



節分追儺会

令和五年二月三日

当山貫首持田日勇猊下を大導師に、二月三日午後三時より節分追儺会を厳修致しました。今年は総勢四十九名の年男福女の方々が参加し除厄開運、福禄倍増、年中無難を祈るご祈祷を受けました。

当山貫首持田日勇猊下を大導師に、二月三日午後三時より節分追儺会を厳修致しました。今年は総勢四十九名の年男福

女の方々が参加し除厄開運、福禄倍増、年中無難を祈るご祈祷を受けました。

東日本大震災第十三回忌慰靈法要

令和五年三月十一日（土）



午後二時より増田寶泉執事長を導師に東日本大震災第十三回忌慰靈法要が厳修されました。法要では妙法和讃が奉納され、僧侶檀信徒は読経唱題の中、本年で丸十二年を迎える水難横死の諸精靈に追善供養の祈りをそなえました。

春季彼岸会

令和五年三月二十一日（火）

午前十時より増田寶泉執事長を導師に

に、令和五年春季彼岸会を厳修致しました。初彼岸を迎える遺族や総代、世話人、常在講、柔和会が参列し、共に供養の志を捧げました。

お釈迦様の誕生日にあたる四月八日に天童稚児と茂原公園を練り歩き、花まつり法要が厳修されました。大堂ご宝前の花見堂内の誕生佛に天童稚児らによる濯佛が行われ、献灯献花祭文の奉納が行われました。その後、天童稚児の発育増進を願い修法師によるご祈祷が行われました。

花まつりコンサート

令和五年四月八日（日）

十三時より仏殿にて花祭りコンサートが行われました。演奏者はブーケデトン

の皆様でした。今年も大勢の方がコンサートに訪れ、春の陽気の中で素晴らしい音色に耳を傾けていました。

午前十一時より観音堂を出発した行脚隊が市内に御題目を響き渡らせました。大堂では身延山久遠寺豊田布教部長による法話の後、十四時より増田寶泉執事長を導師にお題目初唱会大法要を厳修致しました。法要中宗宝である、開堂供養大曼荼羅御本尊がご開帳されました。

夏季御更衣式

令和五年六月一日（水）

午後二時より増田寶泉執事長を導師に夏季御更衣式を厳修致しました。読経中の皆様でした。宮殿の御簾が下ろされました。その後、夏衣になられた日蓮大聖人が御開帳されました。



花まつり

令和五年四月八日（日）

お題目初唱会
令和五年五月十三日（土）

午前十一時より観音堂を出発した行脚

隊が市内に御題目を響き渡らせました。

お題目初唱会

ほうろく灸

令和五年七月三十日

土用の丑の日にあたる七月三十日に華経殿でほうろく灸が行われました。

参加者はほうろく皿を頭に被り、もぐさに火をつけ熱いお灸で登頂のツボを刺激し、偏頭痛・暑気頭痛・虫封じの加持祈祷を受けました。



川施餓鬼

令和五年八月二十四日

午前十時より茂原公園弁天池前にて増田寶泉執事長を導師に川施餓鬼会を厳修致しました。檀信徒と共に水難横死の靈を弔うために祈りを捧げました。

子育て観音大祭

令和五年八月二十四日

午前十一時より子育て観音様前にて増田寶泉執事長を導師に、子育て観音大祭を厳修致しました。川施餓鬼に引き続き参列の檀信徒と共に供養を捧げ、修法師によるご祈祷が行われました。



秋季彼岸会

令和五年九月二十三日（金）

午前十時より増田寶泉執事長を導師に、令和五年秋季彼岸会を厳修致しました。初彼岸を迎える遺族や総代、世話人、常在講、柔和会が参列し、共に供養の志を捧げました。

秋季御更衣式

令和五年十一月一日（水）

午後六時より当山貫首持田日勇猊下を大導師に秋季御更衣式を厳修致しました。本年は五十靈位が新盆を迎える施餓鬼の作法に則り、供養が行われました。施餓鬼法要の後、新盆の家毎に諷誦文供養が行われました。



御会式

令和五年十一月十一日（土）

当山貫首持田日勇猊下を大導師に曰蓮
大聖人第七四二遠忌の御会式を厳修いた
しました。大堂の御宝前は沢山の献灯の
明かりで満たされ、参列者は宗祖への御
法恩の誠を捧げました。



万灯行列は浜町観音堂を出発し市内を練り歩きました。本年は妙源寺様、妙楽寺様、東光院様、妙弘寺様、實相寺様、信行寺様、鏡濟寺様が行列に参加いたしました。大堂前に到着後、各万灯講による万灯奉納が行われました。万灯奉納代表として妙弘寺檀徒 山田英資様が奉告文を読み上げました。その後修法師によるご祈祷が行われました。

日蓮大聖人銅像寄附奉納者一覽

日蓮大聖人銅像寄附奉納者一覧

